

Part 2 IBM iクラウド導入事例

北海道オフィス・システム株式会社

- 戦略的な料金体系や従量課金を特色にクラウドサービス「Pure Cloud-i」を開始へ

札幌を拠点に全国のユーザーに向けて一時利用やバックアップ需要を狙う

POINT

- 3つの条件が重なり、好機と見てデータセンター事業に参入
- 事業規模にフィットするPureSystemsが登場し、クラウドサービスへ進出
- 戦略的な料金設定や従量課金など特色あるサービスを提供

COMPANY PROFILE

設立：1990年
本社：札幌市中央区
資本金：8000万円
従業員：20名（2013年7月）
事業内容：IT機器・ソリューション販売、システム構築・運用・保守、データセンター（ハウジング/ホスティング）事業
<http://www.katagiri-g.com/hos/>



IT・通信

3つの条件が重なり データセンター事業に参入

北海道オフィス・システムは、建設機械のレンタル事業などを行う片桐機械と日本オフィス・システムとの合弁により1990年に設立された会社である。設立以来、片桐機械を含む片桐企業グループ6社の情報システム部門としての顔と、IBM i (AS/400) やPCの販売・保守を行うITベンダーとしての2つの顔を持ち、事業を展開してきた。現在の売上比率は「片桐企業グループ向けが25%、外向けが75%」（代表取締役社長の花田滋雄氏）で、ITベンダーとしての活動が中心。そして今、新たな取り組みの1つとして「Pure Cloud-i」というクラウドサービスを準備中である。

同社は昨年、ハウジングとコ・ロケーションを内容とするデータセンター事業をスタートさせた。新たな事業を立ち上げた理由について花田氏は、「2011年の東日本大震災の後、安全な立地のデータセンターを求める需要が大きく伸びていました。札幌市は今後30年間に震度6以上の地震が起きる可能性は極めて少ないと予測されている安全な場所です。このことに加えて、当社が拠点を置く札幌テクノパークにデータセンター用のスペースがあり、かつそれに隣接するオフィスで当社のシステム要員が常時システム運用を行っています。データセンター事業を行う条件はそろったと考え、参入しました」と説明する。

そして1年、ハウジングを利用する顧客もつき、システム基盤の整備とデータセンター・ビジネスを推進するための体制をさらに充実させることができた。

PureSystemsに惚れ込み クラウドサービスへ

そこへ、p260という新しいノードのPureSystemsが登場してくる（2013年8月）。

「p260というノードは、当社の事業計画にマッチする大きさと価格の製品で、クラウドへ進出する弾みとなりました」（花田氏）

同社はこれまで、片桐企業グループのシステム運用とプ



プログラム開発用にSystem i5モデル520を使用してきた。CPU・メモリ・ディスクともまだ十分な余裕があり、「新規要件がない限り基幹サーバーを購入する必要は基本的にない」（情報システム室の棚橋賢司室長）状況であったが、花田氏の「PureSystemsでクラウド事業に取り組みたい」との思いが片桐企業グループのトップの思惑とも一致し、p260の購入を決めた。

「それもこれも、デモを見てPureSystemsに惚れ込んだから」と花田氏と棚橋氏は口をそろえる。

「従来、IBM iでLPARを設定するにはかなりの手間と時間がかかっていました。ところがPureSystemsでは、クローンを作ってテンプレート化すれば、すぐにパーティションを切ることができます。このスピード感は、クラウドに必要な“速やかなサービス開始”に大きく寄与します。しかも、PureSystemsが備える遠隔監視や通報サービスを使えば、クラウドサービスのスタート時から24時間・365日のマネジメント・サービスが可能です。それに加えてP05のプログラムライセンスレベルも後押しとなりました。当社が長年培ってきたIBM iやオープン技術を活かせばクラウド市場でも十分に戦える、と興奮しました」と、花田氏はPureSystemsに出会った時の印象を振り返る。

購入したPureSystemsは、7340CPWのp260(POWER7+、



花田 滋雄氏
代表取締役社長



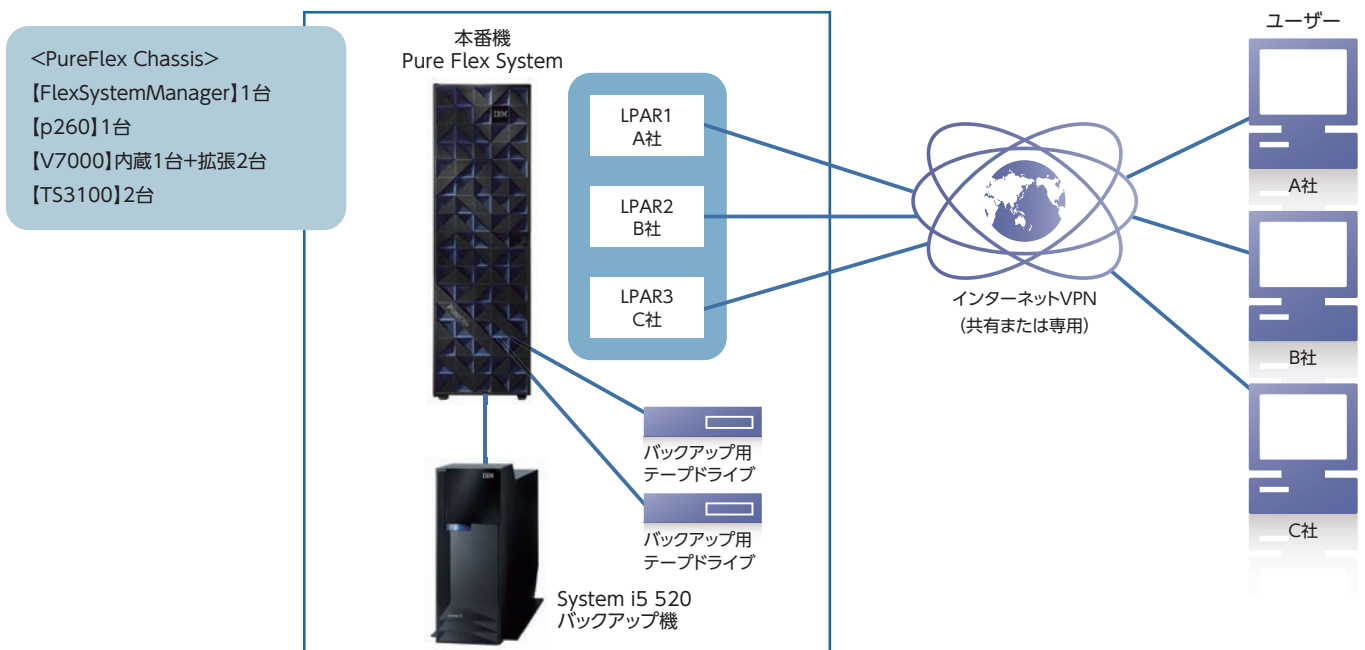
棚橋 賢司氏
情報システム室
室長

4コアモデル、3.5GHz、IBM i 6.1および7.1) 1台と、SSD 400GBとHDD 600GBを内蔵するV7000 1台、2台で計4TBになる拡張ストレージ、そしてFlexSystemManagerという構成である（図表1）。

「戦略的な」料金設定と 従量課金を採用

Pure Cloud-iの1号ユーザーは、System i5からすべての業務システムを移行させる片桐企業グループになるが、それ

図表1 北海道オフィス・システムのクラウドシステム概要



以外のリソースをクラウドサービスにあてる計画だ。

現在、提供するサービスやメニューの最終調整に入っているが、「戦略的」（花田氏）と言える内容なので紹介しよう。

サービスメニューは「Basic」「Standard」「Advanced」の3コース。Basicが最小の367CPW（0.05コア）で、「1ユニット」と呼ばれる。Standardは2ユニット、Advancedは3ユニットという構成である。これにメモリとディスク、OS・ソフトウェアのライセンス（Query、APW、Client Access）と各種サービスが含まれる。またメモリ、ディスク等のリソースが増設できる（図表2）。

初期費用はそれぞれ10万円、15万円、18万円だが、月額料金がBasic = 6万円、Standard = 9万円、Advanced = 12万円という設定である。この料金設定が、花田氏の言う

「戦略的」である（図表3）。「他社の料金体系も参考に、競争力のある価格設定を行いました」と花田氏。

もう1つ特徴的なのは、従量課金を導入することだ。これは日本IBMの「SmarterCloud Entry」を利用して実施する。

SmarterCloud Entryは、Powerおよびx86マシン上で稼働するソフトウェアで、クラウド環境の構築・変更を容易にするポータル機能や、リソースの利用状況に基づく課金管理機能などを備える。

「SmarterCloud Entryでは、分単位でCPUとメモリの利用状況を捉えて課金できますが、当社は日次単位の従量課金を検討しています。月30日として20日以上の利用ならば月額定額料金のほうがお得、20日未満なら従量課金のほうがメリットがある、という料金設定にする予定です」と棚橋

図表2 Pure Cloud-iの基本仕様

コース	Basic	Standard	Advanced	remarks
CPW	367	734	1,101	
使用コア数	0.05	0.1	0.15	
メモリ	2GB	4GB	4GB	
ディスク	150GB	150GB	150GB	実効容量は133GB
稼働OS	IBM i 6.1 または 7.1			※無制限ユーザー
稼働ライセンス	Query APW Client Access			※標準ではWDSなし ※クライアント接続は、PCommまたはiナビゲーター
稼働時間	24時間365日			
通信	インターネットVPN（共有または専用）			価格別途お打合せ（拠点数により変動）
標準サービス	①標準サービスとして、1カ月に1回、LPAR環境のバックアップ実施 ②リソース監視（パフォーマンス、ディスク容量） ③ヘルプデスク			①ユーザーデータを含む ②パフォーマンス測定ツール使用。リソース増強の提案など ③OS / 附属ライセンスに関する問合せ対応 (月～金：9:00～17:00)
監視	障害監視 24時間365日 (FSM機能で障害監視、障害時IBM→北海道オフィス・システムへ通報)			
バックアップ	仮想テープ機能により貸出領域へ可能（ユーザー実施）			・オプション：物理媒体バックアップ（料金別途←曜日/回数）
PTF適用	原則なし（重要PTFは適用、無償）			※PTF適用時は、メンテナンスとしてシステム一時停止
初期費用	10万円	15万円	18万円	
月額費用	6万円	9万円	12万円	※月額定額制

図表3 Pure Cloud-iの料金体系（月額定額プラン）

コース	契約期間→	1年	2年	3年	4年	5年
Basic 月額6万円 350CPW/2GB/146GB	初期費用	10万円				
	期間小計	72万円	144万円	216万円	288万円	360万円
	合計	82万円	154万円	226万円	298万円	370万円
Standard 月額9万円 700CPW/4GB/146GB	初期費用	15万円				
	期間小計	108万円	216万円	324万円	432万円	540万円
	合計	123万円	231万円	339万円	447万円	555万円
Advanced 月額12万円 1,050CPW/4GB/146GB	初期費用	18万円				
	期間小計	144万円	288万円	432万円	576万円	720万円
	合計	162万円	306万円	450万円	594万円	738万円



氏は説明する (図表4)。

従量課金を導入するのは、Pure Cloud-iのターゲットを、開発・テストといったテンポラリーな利用や、災害対策/バックアップなどの2次的な使用をメインに想定しているからである。

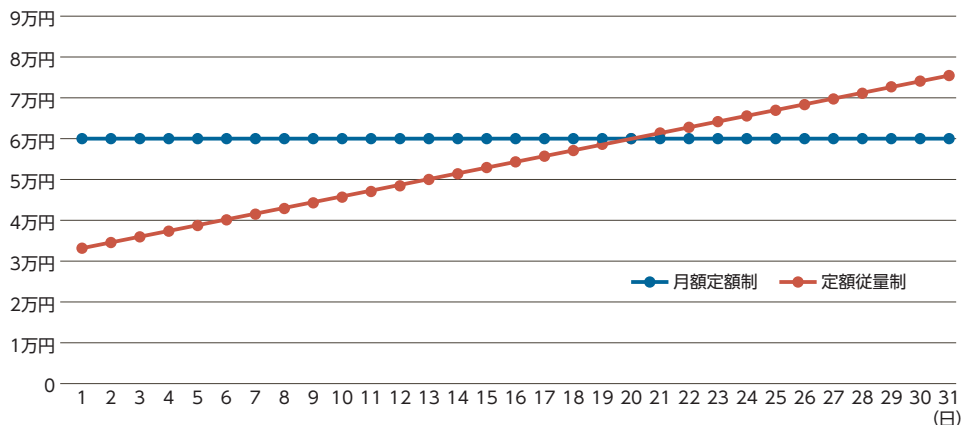
「お客様の中には、開発やテスト用に短期間だけ利用したいという方や、すでにデータセンターを利用しているのでバックアップだけで十分といった方も少なくないと見えています。当社は、北海道だけでなく本州・四国・九州といった北海道以外のお客様も対象に、“データセンターのためのデータセンター” “バックアップのバックアップ” といった、低価格で簡便なクラウドサービスを目指しています」(図表5)と花田氏は語り、「当社のPure Cloud-iは、人の存在感も特徴の1つ」と、次のように続ける。

「一般的に、システムの運用・保守をデータセンターに委託しただけでは、きめ細かいサービスをスピーディに受けられないのが実情です。当社では、PureSystemsのすぐ近くに常時IBM iの開発・運用を行っている要員がいるため、人の存在感のあるサービスをご提供できるのが強みです。人の手を介したきめ細かいサービスをご提供することが、これからのクラウドサービスの差別化要因であると考えています」

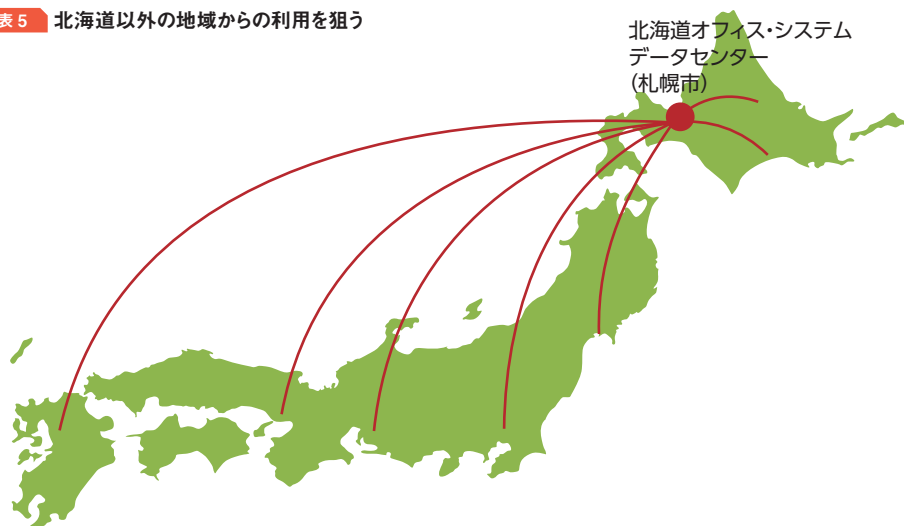
PHPの受託開発にも乗り出し クラウドサービスで提供

同社ではPure Cloud-iの開始に合わせて、IBM i上で稼働するPHPアプリケーションの受託開発にも乗り出し、クラウドサービスと関連付けて提供していく計画も進めている。

図表4 Pure Cloud-iの月額定額料金と従量課金の比較 (案、計画中)



図表5 北海道以外の地域からの利用を狙う



同社は2010年から3年の歳月をかけて片桐企業グループの顧客管理・在庫出入庫管理・請求売掛管理・買掛管理を含む全ての基幹システムのビジネス・プロセス・リエンジニアリング (BPR) に取り組み、ビジネスロジックは既存のRPGプログラムのまま、業務フローとユーザーインターフェースをPHPで再構築した経験を持つ。この経験とノウハウをもとに「コンサルティングからスタートしてスピーディな開発を行い、手頃にご利用いただけるようにしたい」と棚橋氏は抱負を語る。

現在、片桐企業グループの基幹システムをPureSystemsへ移行中で、年末に切り替え作業を行い、来年1月にサービスインさせる予定。また、一般向けのPure Cloud-iを2月から開始する計画である。北の大地に特色のあるクラウドサービス、Pure Cloud-iが登場する。⑦